

第3B（小）分科会 —教育環境整備に関する課題—

提案主題 子どもと教師が達成感をもつことのできる学校づくりの推進
～学力向上の（学力差を縮める）ため、組織への働きかけを通して～

司会者	豊後大野市立新田小学校	板井好美
提言者	豊後大野市立千歳小学校	原尻喜夫
助言者	豊後大野市立三重東小学校校長	赤嶺俊治
記録者	豊後大野市立菅尾小学校	安東通典

1 協議の柱

教職員が危機感を共有し、成果が実感（達成感）できる取り組みをどのように行うか。

2 協議の実際

(1) 質疑と回答

- ・質問…学力に関してのPJチーム（学びづくりプロジェクト）はどんなメンバーか。
- ・回答…校長，教頭，教務主任，学力向上支援教員，研究主任，生徒指導主任その他校長が必要と認める者
- ・質問…学力向上と校内研修との関わり方
- ・回答…本年度は国語科の指導方法の研究を行っている。学力調査の分析に基づいた取り組みを行っているが校内研究の内容と重点的な課題との関連が十分でない場合がある。

(2) グループ協議

- ・教務主任と研究主任等のミドルリーダーを活用して、テスト結果を分析し実態が明らかになり、学校全体で学力向上等に関する課題の共有化と焦点化が図られつつある。
- ・学力向上等に関する課題の共有化と焦点化を図っていくためにはデータの可視化が必要である。また、可視化をすることは教職員のモチベーションにつながる。
- ・データの達成状況を分析するだけでなく、取組内容の検証を行い、具体的な改善につながるデータ分析をしていく必要がある。
- ・児童生徒のつまずきを調査学年だけでなく、学校全体の取り組む課題として6年間を見通した取り組みを進める必要がある。そのためには、学力向上支援教員の活用や授業観察等を組織的・計画的に進めていく必要がある。

3 指導助言

- ・学力を向上させるためには、取組内容の検証と取組指標等を修正するなどのPDCAサイクルによる具体的な改善の取組が大切である。千歳小は、それをデータの可視化（「得点率の推移と予想」と「得点の分布」）とそのデータを基に短期で取組を改善することによって成果を上げている。つまり、高い指標を立て、その上でそれを実現していく為にするべきことは何なのか道筋をつけて、ひとつひとつ実践していくこと。そのために、学力の状態や取組の様子をグラフで可視化したことである。
- ・教頭の仕事として「校長の補佐」とは、校長がやろうとしていることを理解して、それを教職員に伝えることである。校長との意志疎通を十分に図ってもらいたい。